

# 古墳の発掘

～葬送儀礼の実像に迫る～



## 遺跡と調査の概要

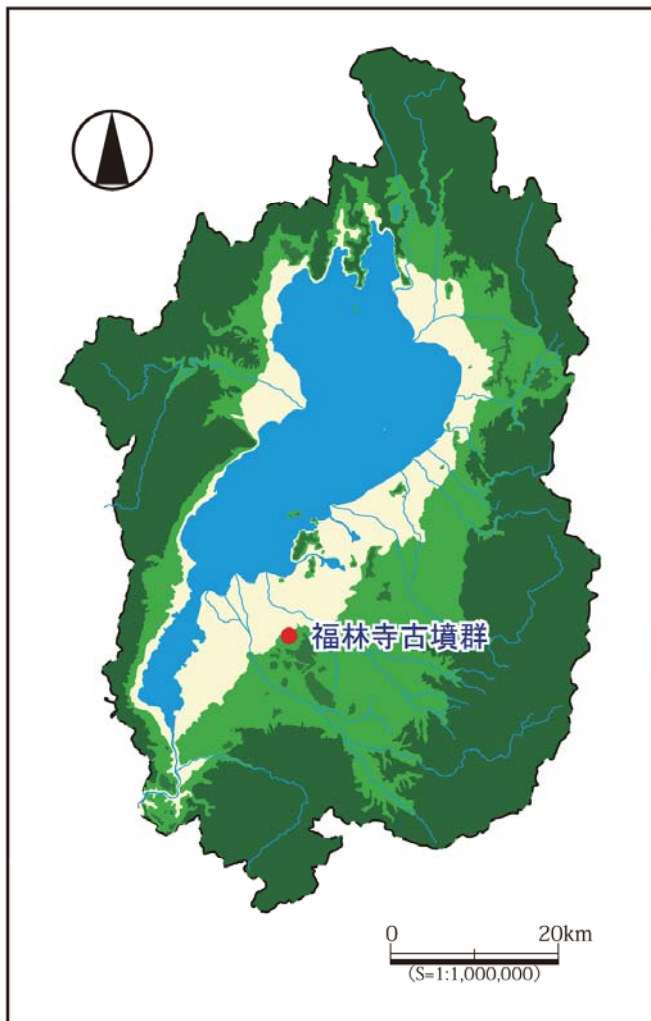
ふくりんじ  
福林寺古墳群は、野洲市小篠原に所在し、野洲川の右岸、野洲市南部の田中山西麓に立地します。当古墳群では11基の古墳が確認されており、いずれも内部に横穴式石室をもつ直径10～20mの円墳とみられています。しかし、発掘調査は実施されておらず、古墳の詳細はわかっていませんでした。

古墳群の西側には、野洲市指定文化財である福林寺跡摩崖仏があります。ここを中心に広がる福林寺遺跡には、かつて建物の礎石が点在していたことが知られており、発掘調査では古代の瓦が出土しています。

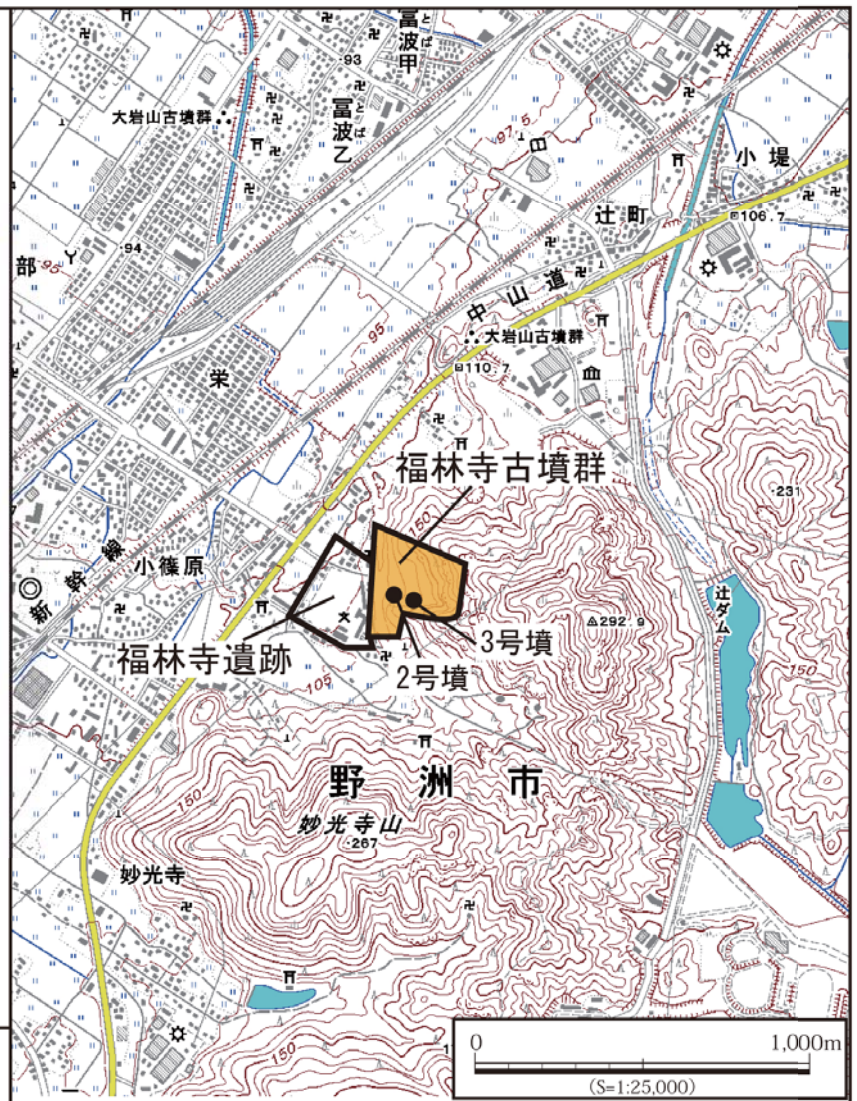
福林寺は、野洲郡の代表的な古代寺院で、7世紀後半に創建されたと推測されています。古墳を築いた人々とその後に寺院を建立した人々との関係が注目されています。

当協会では、中ノ池川支流単独通常砂防(総流防)工事に伴う福林寺古墳群の発掘調査を令和2年度から実施しています。

調査は2号墳と3号墳を対象に実施しています。昨年度、横穴式石室の内部を調査した3号墳では石室の詳細が明らかとなり、副葬品も出土しました。



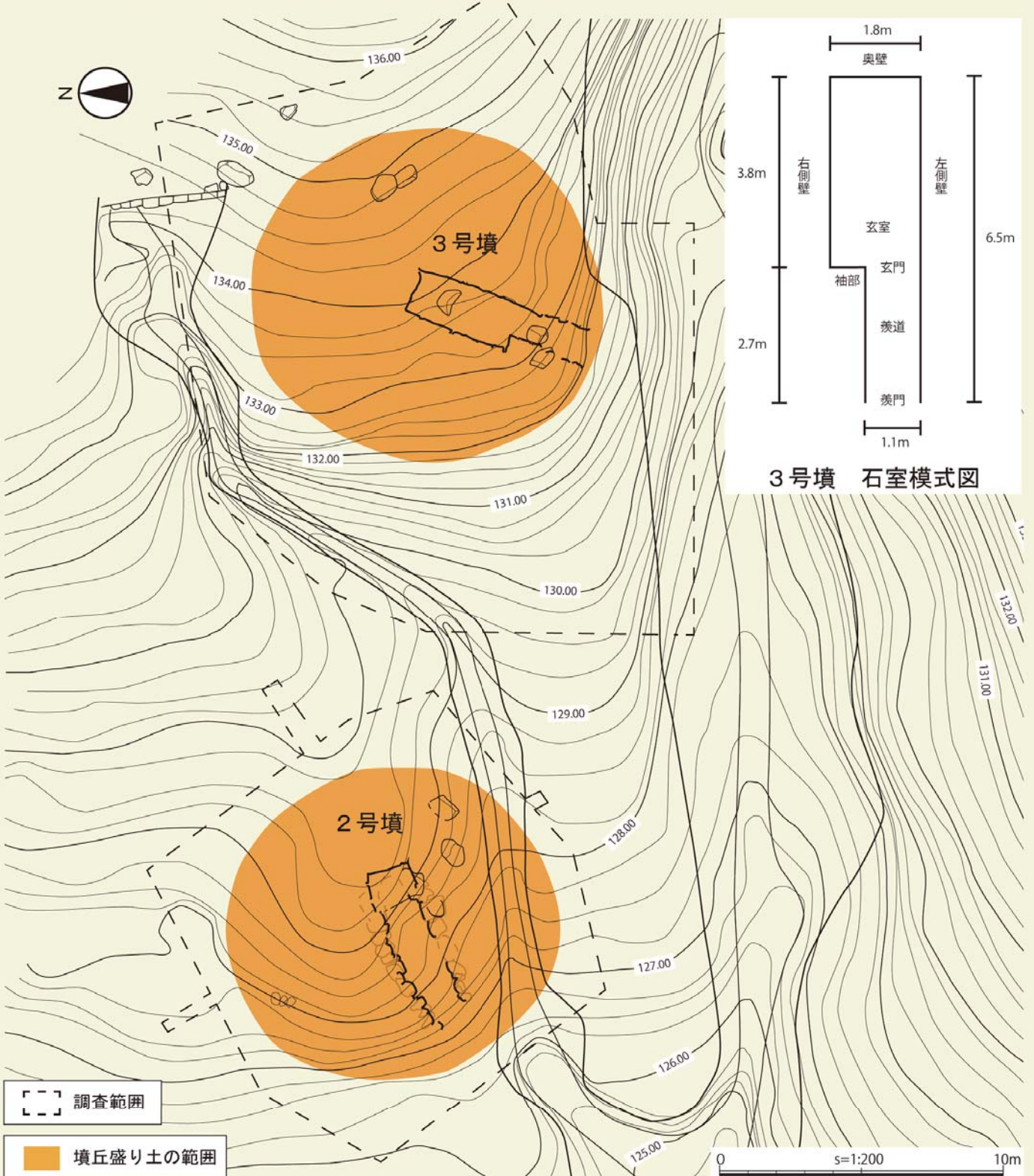
福林寺古墳群の位置



## 福林寺古墳群 2号墳・3号墳

2号墳は、横穴式石室をもつ円墳です。石室は南西に開口します。内部は調査していないため、詳細は不明です。

3号墳は、墳丘径12m程度の円墳とみられます。埋葬施設は南西に開口する右片袖式(石室の奥から見て、右側に袖部があるタイプ)の横穴式石室です。花崗岩を積み上げてつくられています。天井の  
 高さは玄室で約2.1mを測ります。羨道は天井石が残っていませんが、それよりも低く、1.6m前後であったとみられます。石室の規模は下の模式図に示したとおりです。



福林寺古墳群遺構配置図 (S=1/200)



2号墳

3号墳

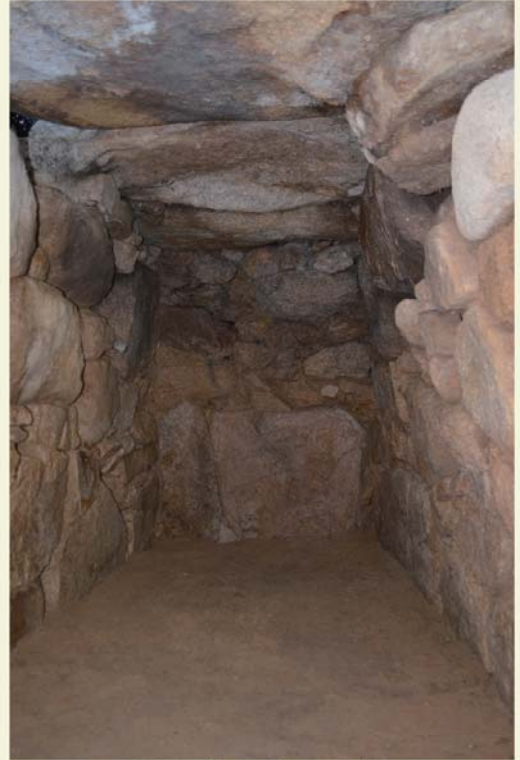
2号墳・3号墳



3号墳



3号墳の横穴式石室



横穴式石室の内部



石室内の遺物出土状況



袖部付近でまとめて出土した土器



玄室の奥で出土した土器



玄室の入口付近で出土した土器

## 出土遺物

3号墳の横穴式石室から、被葬者が耳に付けていたイヤリング(耳環)<sup>じかん</sup>や副葬品としておさめられた鉄製の矢じり(鉄鏃)<sup>てつぞく</sup>や土器(土師器・須恵器)<sup>はじき すえき</sup>などが出土しました。



イヤリング(耳環)



鉄製の矢じり(鉄鏃)



土師器の食器(前列右端)と須恵器の食器や壺



水筒のように液体を入れて使用した容器(須恵器提瓶)

## まとめ

今回の調査で、2号墳と3号墳はいずれも内部に横穴式石室をもつことが判明しました。3号墳の横穴式石室は、右片袖式と呼ばれるタイプで、この地域では最もよくみられるものです。石室や出土遺物の特徴から、古墳時代後期(6世紀後半～末頃)に築造されたと考えられます。

福林寺古墳群のように小型古墳によって構成される古墳群は群集墳<sup>ぐんしゅうふん</sup>と呼ばれ、考古学の研究成果から、各古墳には地域の有力者とその近親者が埋葬されたと考えられています。横穴式石室は、出入口が簡単に開閉でき、繰り返し埋葬できることが大きな特徴です。3号墳では、耳環が4点見つかりましたが、このうち③と④は大きさや太さがよく似ており、一組であったとみられるのに対し、①と②は大きさや太さが異なります。本来は①・②にもそれぞれ組み合う耳環があったと推測されます。人骨は見つかりませんが、少なくとも3人が埋葬されていたと考えられます。

野洲市では6世紀中頃から7世紀にかけて山麓部に300基を超える群集墳が築造されます。市内の古墳については、首長が葬られたとみられる大型古墳の内容が比較的よく判明している一方、群集墳は発掘調査された例が少なく、不明な部分が多いのが現状です。今回、発掘調査により市内の群集墳にかかる具体的な資料が得られたことは、地域の歴史を考える上でも貴重な成果といえます。